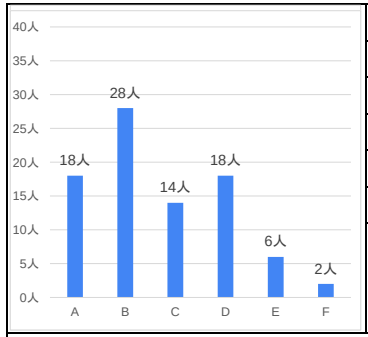
R5 運動部活動の運営と休日の地域移行に関する意識調査結果（八重山地区）
『 教職員・指導者アンケート 』

R5 教職員：n 79　　R5 指導者：n 8　　R4 教職員＋指導者：n 49

【質問１】（教職員と指導者への質問項目）
あなたの役職をお答えください。

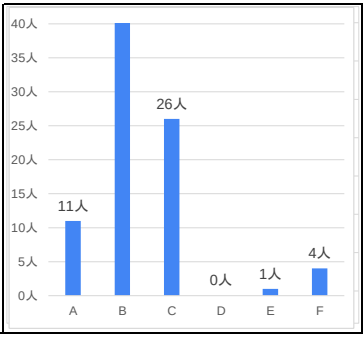
R５　教職員+指導者



回答項目
A 管理職
B 部活動顧問
C 部活動副顧問
D 顧問・副顧問以外の教職員
E 部活動指導員
F 外部指導者

【R4アンケートでの質問】（教職員と指導者への質問項目）
あなたの役職をお答えください。

Ｒ４　教職員＋指導者



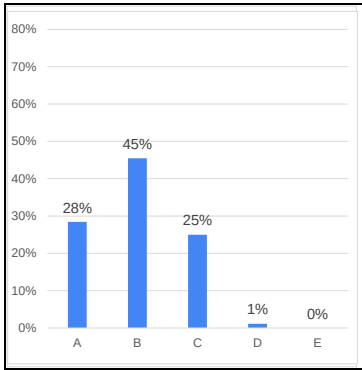
回答項目
A 管理職
B 部活動顧問
C 部活動副顧問
D 顧問・副顧問以外の教職員
E 部活動指導員
F 外部指導者

【結果と考察】
〇今回は、教職員と指導者を合わせた87人の方から回答をいただいた。（昨年度より36人増）
今年度は、昨年度よりも部活動指導員が増加したため、教職員と指導者を分けてアンケート調査を行った。教職員については、部活動に直接関わりの無い方も調査対象とさせていただいたため回答数は上がった。
部活動指導員については6人、外部指導者についても2人の回答をいただくことができた。
QRコードを使用したアンケート調査を行っており手軽に回答できるため、次年度もアンケートへの協力周知を行っていきたい。

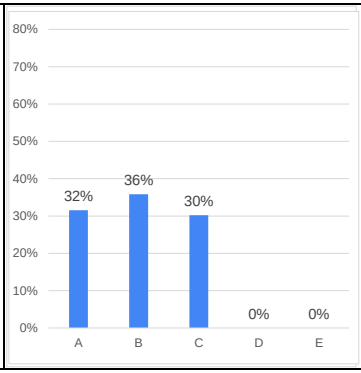
【質問2】（教職員と指導者への質問項目）
各学校において「運動部活動の在り方に関する方針（改定版）」（令和3年12月沖縄県教育委員会）についての周知はありましたか？

【R4アンケートでの質問】（教職員と指導者への質問項目）
各学校において「運動部活動の在り方に関する方針（改定版）」（令和3年12月沖縄県教育委員会）についての周知はありましたか？

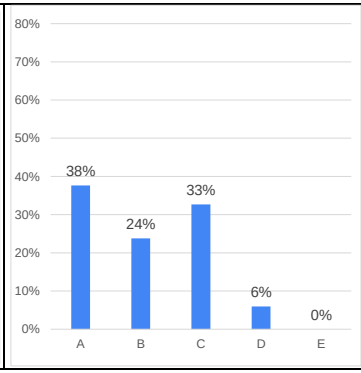
R５　教職員＋指導者



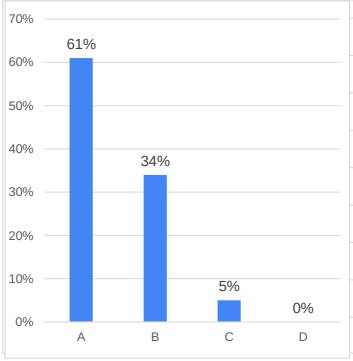
R５　教職員



R５　指導者



R４　教職員＋指導者



R５ 回答項目

A 内容の重要部分の確認もあり、しっかり周知があった
B 回覧による周知方法であった
C 周知があったか分からない
D なかった
E 無回答

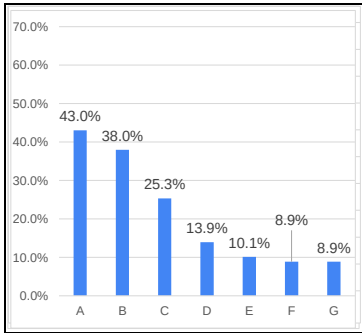
R４ 回答項目

A あった
B なかった
C わからない
D その他

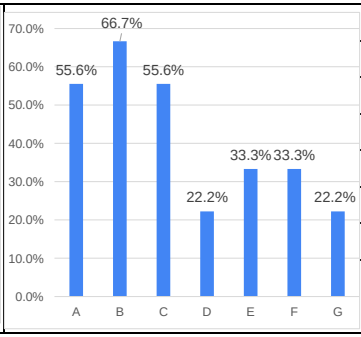
【結果と考察】
〇今年度は、昨年度実施したアンケートの考察を踏まえ、「周知があった」という回答項目を「A 内容の重要部分の確認と周知があった」と「B 回覧による周知方法であった」の2つに分けた。「A･B」の回答率を合計すると、73%であり、昨年度の回答率61%を上回る回答となった（令和2年度の65%）。しかし、「A 内容の重要部分の確認もあり、しっかり周知があった」という項目は、 28%であったため、各学校における周知方法の強化を図る必要がある。
本県における部活動の適切な運営に関する共通事項であるため、年度初めや年度途中（新チームスタート時）等のタイミングで「運動部活動の在り方に関する方針（改訂版）（令和3年12月沖縄県教育委員会）」の確認を行い、部活動の適切な運営に繋げてほしい。部活動の地域移行への取り組みが進みだし、沖縄県においても部活動改革に関する関心は高くなっている。今後の地域クラブ活動へも周知が必要となる重要な内容であるため、各学校に応じた共通理解･共通実践の依頼を各地区中体連から発信し、部活動に携わる全ての方への周知を目標としていきたい。

【質問3】（教職員と指導者への質問項目）
部活動の指導を通じて目指していることを教えてください。　　※選択肢の中から最大3つまでを選択した上位7項目

R５　教職員



R５　指導者



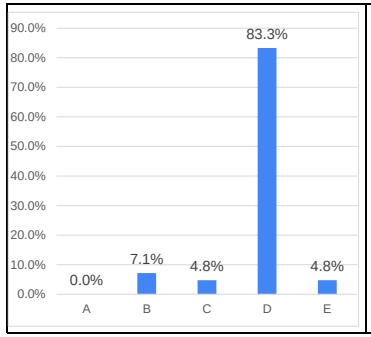
回答項目

A 目標に向かって、やり抜く力が身に付くこと
B 礼儀やマナーが身につくこと
C 技術や体力の向上ができること
D 新しい友達（先輩・後輩など）をつくれること
E 練習を楽しめること
F 放課後を健全に過ごせること
G 仲の良い友達と一緒に活動できること

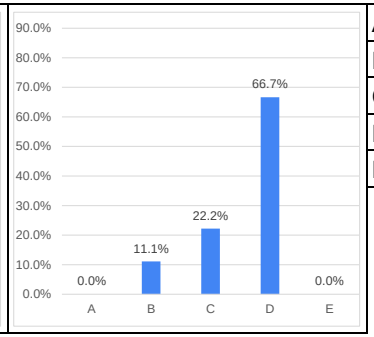
【結果と考察】
〇教職員･指導者ともに共通し、多くの回答を得ている項目は、「A 目標に向かって、やり抜く力が身に付くこと」「B 礼儀やマナーが身につくこと」「C 技術や体力の向上ができること」となっている。特に、部活動の指導を通して、「A 目標に向かって、やり抜く力が身に付くこと」「B 礼儀やマナーが身につくこと」の割合が多いことから、「継続力や忍耐力、人間関係力」等を育むことが部活動の指導を行う上で重要視されていることが伺える。

【質問4】（教職員と指導者への質問項目）
部活動を指導している、平日の日数を教えてください。

R５　教職員



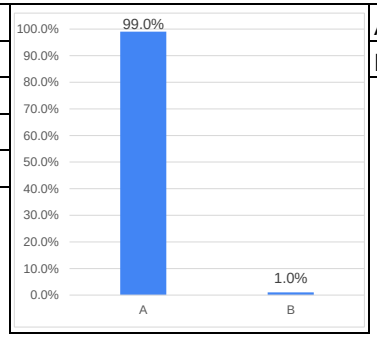
R５　指導者



R５ 回答項目
A １日
B ２日
C ３日
D ４日
E ５日

【R4アンケートでの質問】（教職員と指導者への質問項目）
学期中、平日は少なくとも１日以上の休養日を設けていますか。

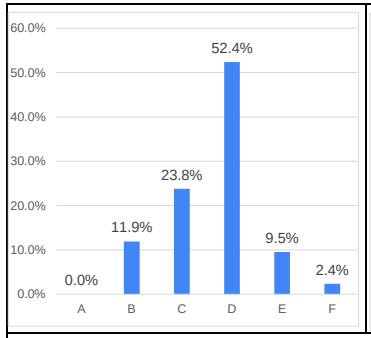
R４　教職員＋指導者



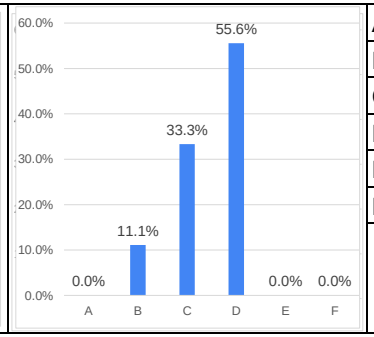
R4 回答項目
A 設けている
B 設けていない

【質問5】（教職員と指導者への質問項目）
平日１日あたりの平均的な指導している時間を教えてください。

R５　教職員



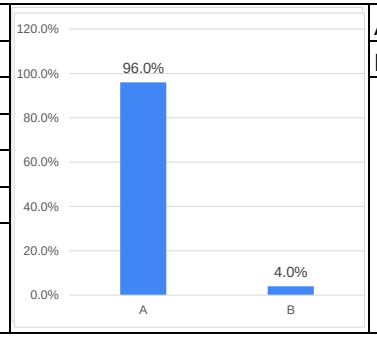
R５　指導者



R５ 回答項目
A 30分程度
B 1時間程度
C 1時間30分程度
D 2時間程度
F 2時間30分程度
F 3時間以上

【R4 質問】
平日１日あたりの平均的な指導している時間を教えてください。

R４　教職員＋指導者



R4 回答項目
A ２時間程度の活動である
B 超過している

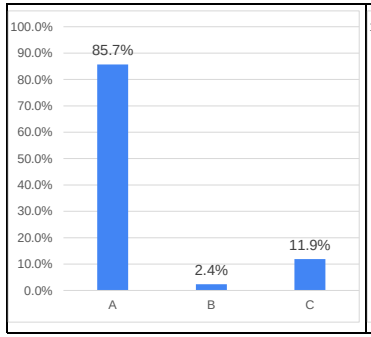
【結果と考察】
〇「平日１日以上の休養日を設けている」部活動は95．2%であり、多くの部活動で平日の１日に休みを設けていることが分かった。昨年度は、99%の部活動で「平日の１日以上の休養日を設けている」（令和2年度は、100%）であった。

〇平日１日あたりの平均的な指導時間は、97．6%の部活動で「2時間（以内）程度の活動である」と回答し、昨年度と同様に多くの学校においては、適切な時間で活動していることが伺える。
　コロナ感染症が感染症法の5類に引き下げられ、通常の練習や大会が開催されてきた影響があると考えられる。しかし、スポーツ医・科学に基づく活動時間の基準等を踏まえて沖縄県教育委員会が定めた活動時間（週１１時間程度）についての理解を深め、成長期にある生徒が、バランスの取れた生活を送り、それぞれの目標達成に向けて取り組めるよう更に周知を図ることが大切だと考える。

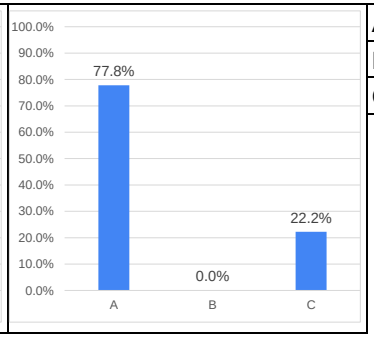
【質問6】（教職員と指導者への質問項目）
部活動を指導している、休日（土日）の活動日数を教えてください。

【R4 質問】
学期中、土曜日及び日曜日は少なくとも１日以上の休養日を設けていますか。

R５　教職員

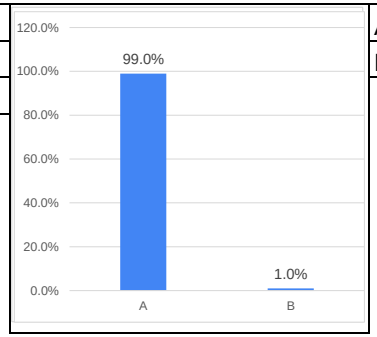


R５　指導者



R５ 回答項目
A 1日（土日のどちらか）
B 2日（土日の両方）
C 休日は行わない

R４　教職員＋指導者

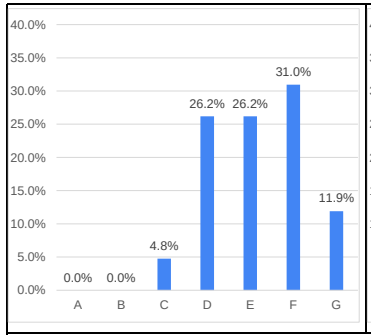


R4 回答項目
A 設けている
B 設けていない

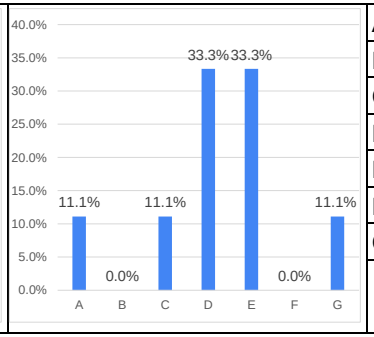
【質問7】（教職員と指導者への質問項目）
休日１日あたりの平均的な指導している時間を教えてください。

【R4 質問】
休業日（学期中の週末含む）の平均活動時間についてお答えください。

R５　教職員

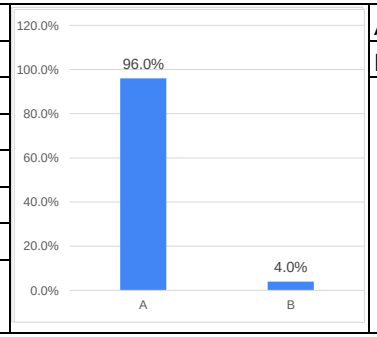


R５　指導者



R５ 回答項目
A 30分程度
B 1時間程度
C 1時間30分程度
D 2時間程度
F 2時間30分程度
F 3時間以上
G 土日は行わない

R４　教職員＋指導者



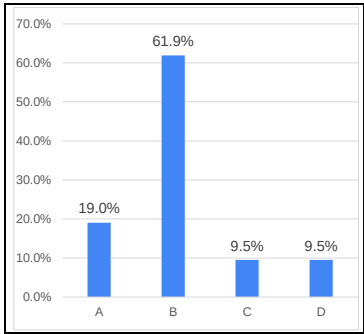
R4 回答項目
A 3時間程度の活動である
B 超過している

【結果と考察】
〇「部活動を指導している、休日（土日）の活動日数」については、回答をいただいたほぼ全ての方が「休日（土日）は少なくとも１日以上の休養日を設けている」と回答した。

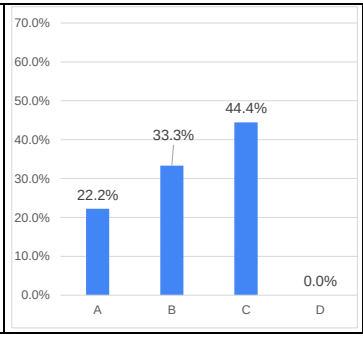
〇休日１日あたりの平均的な指導時間については、「2時間30分（以内）程度」と回答した部活動が、69%であり、31%の部活動が「3時間以上」と回答した。
昨年度は、96%の部活動が「3時間程度の活動である」と回答した。
　この質問項目についても先ほどと同様に、スポーツ医・科学に基づく活動時間の基準等を踏まえて沖縄県教育委員会が定めた活動時間（週11時間程度）についての理解を深め、成長期にある生徒が、バランスの取れた生活を送り、それぞれの目標達成に向けて取り組めるよう更に周知を図ることが大切だと考える。

【質問8】（教職員と指導者への質問項目）
指導をしている部活動の生徒の様子をみて、今の部活動に満足していると思いますか？

R５　教職員



R５　指導者

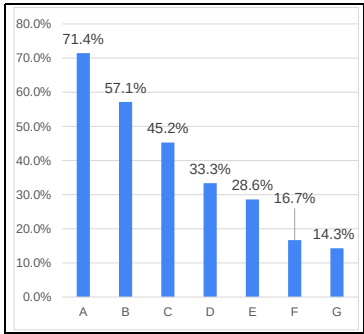


回答項目
A とても満足している
B やや満足している
C 少し不満
D とても不満

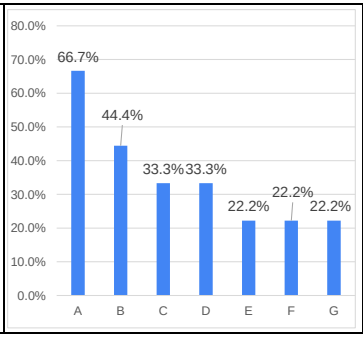
【結果と考察】
〇教職員は「A とても満足している」「B やや満足している」と回答した割合が80．9%であるが、指導者は、55．5%である。44．4%の指導者は「少し不満」と回答した。教職員の19%も生徒の様子をみて、今の部活動に満足していないと感じている。 何らかの不満がある生徒にも目を向け、その部活動の課題に応じた取り組み方法で不満を解消していく取り組みも必要であると考える。

【質問9】（教職員と指導者への質問項目）
指導をしている部活動の生徒の様子をみて、生徒が部活動で満足している（良いと思っている）と思われるところを教えてください。
※選択肢の中から最大3つまでを選択した上位7項目

R５　教職員



R５　指導者

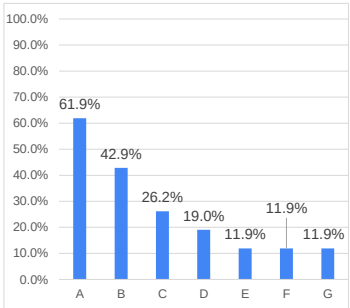


回答項目
A 仲の良い友達と一緒に活動できること
B 技術や体力の向上ができること
C 練習を楽しめること
D 目標に向かって、やり抜く力が身に付くこと
E 新しい友達（先輩・後輩など）をつくれること
F 大会で良い成績を収められること
G 礼儀やマナーが身つくこと

【結果と考察】
〇教職員・指導者ともに、上位4項目が同じとなっている。最も高いのは「A仲の良い友達と一緒に活動できること」であり、次に「B 技術や体力の向上ができること」である。C「練習を楽しめること」・D「目標に向かってやり抜く力が身に付くこと」についても共通する回答率であることから、教職員・指導者が連携を取りながら部活動指導に取り組んでいることが伺える。

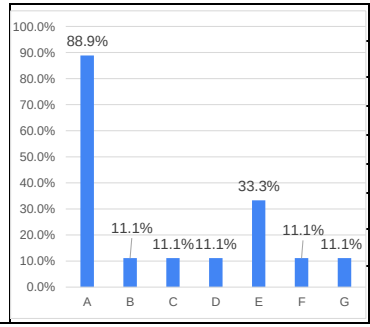
【質問10】（教職員と指導者への質問項目）
顧問をしている部活動の生徒の様子をみて、今の生徒が部活動で課題や不満だと思われるところを教えてください。
※選択肢の中から最大3つまでを選択した上位7項目

R５　教職員



回答項目
A 部員数が少ない
B 勉強との両立が難しい
C 技術や体力の向上が実感できない（専門的な指導をしてほしい）
D 友達や先輩・後輩との関係やチームワークが良くない,
E 自分のしたい活動（趣味等）ができない
F 課題や不満はない
G 試合や発表会などに十分に出場できない、させてくれない

R５　指導者

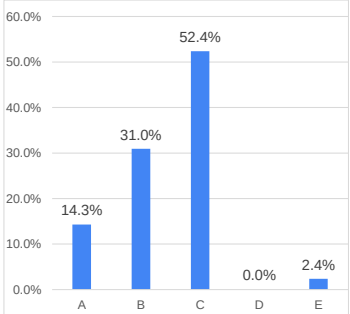


回答項目
A 部員数が少ない
B 勉強との両立が難しい
C 技術や体力の向上が実感できない（専門的な指導をしてほしい）
D 友達や先輩・後輩との関係やチームワークが良くない,
E 練習がつまらない
F 課題や不満はない
G 試合や発表会などに十分に出場できない、させてくれない

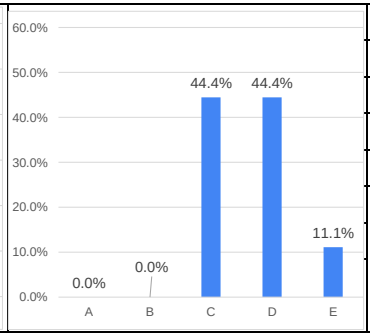
【結果と考察】
〇教職員・指導者ともに「A部員数が少ない」ことについての回答率が高いことが共通している。部活動離れや地域クラブ活動等で活動する生徒が増えてきていることが影響していると考えられる。教職員は、「B 勉強との両立が難しい」ことの回答率が高くなっている。また、指導者の次位には、「E 練習がつまらない」こともあがっていることから、チームの実態等に応じた練習メニューの工夫（専門的な指導含む）も今後の部活動運営における課題の解決や不満の解消に繋がるだろうと思われる。

【質問11】（教職員と指導者への質問項目）
学習や趣味、家族や友人との時間を含めて、心身ともに健康でバランスの取れた生活を送っていくために、現在の活動量（時間や日数）は、生徒にとって適切だと思いますか？

R５　教職員



R５　指導者



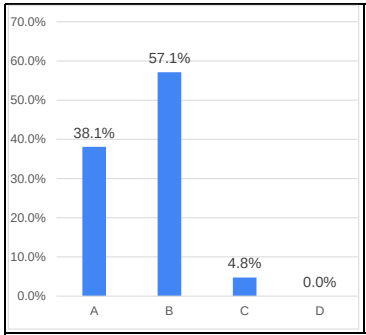
回答項目
A 多すぎる
B やや多すぎる
C 適切
D やや少ない
E 少なすぎる

【結果と考察】
〇教職員の52.4%、指導者の44.4%が「C　適切」と回答している。しかし、「A多すぎる、Bやや多すぎる」と回答した教職員は44.3%に対し、指導者は0%、「Dやや少ない、E少なすぎる」と回答した教職員は2.4%に対し、指導者は55.5%となった。教職員・指導者が連携を取りながら部活動指導に取り組んでいることが伺えたが、現在の活動量（時間や日数）については教職員と指導者の考え方に大きな差がみられた。
本県や各学校が示す部活動方針の共有や各部活動においての活動方針等の再確認を行い、ベクトルを合わせた活動につながる取り組みが必要であると考える。

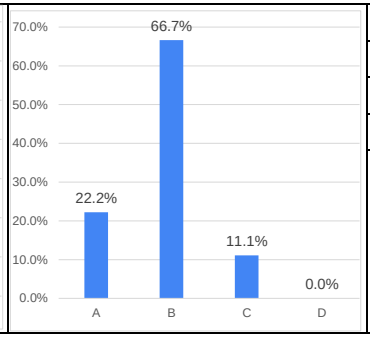
【質問12】（教職員と指導者への質問項目）
生徒自らが意欲を持って取り組む姿勢となるよう、心理面を考慮した肯定的な指導等、指導者と生徒の信頼関係を前提とした指導を行っていますか。

【R4質問】
生徒自らが意欲を持って取り組む姿勢となるよう、心理面を考慮した肯定的な指導等、指導者と生徒の信頼関係を前提とした指導を行っていますか。

R５　教職員

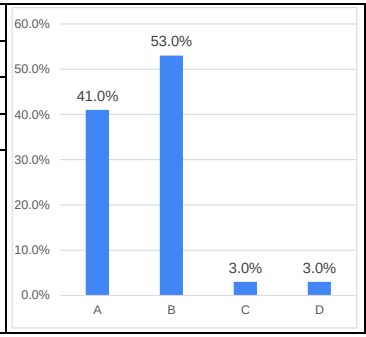


R５　指導者



回答項目
A できている
B ややできている
C ややできていない
D できていない

R４　教職員＋指導者

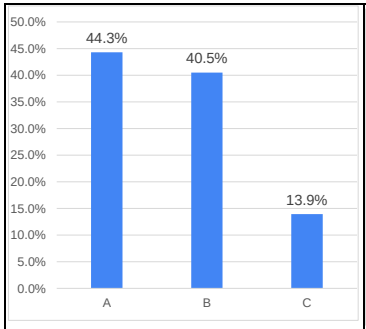


回答項目
A できている
B ややできている
C ややできていない
D できていない

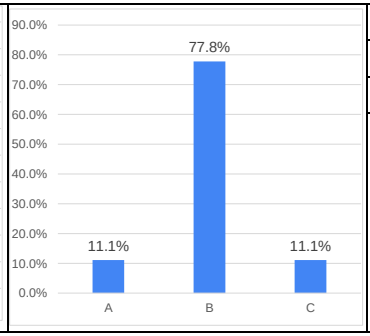
【結果と考察】
〇昨年度は、94%の教職員と指導者が「A できている、B ややできている」と回答した。今年度も95%を超える教職員と88.9%の指導者が「A できている、B ややできている」と答えていることから、教職員・指導者と生徒との信頼関係を前提とした「心理面を考慮した肯定的な指導」、信頼関係を重要視して部活動運営・指導に取り組んでいることがわかる。
昨年に引き続き、教職員と指導者がこれまでの方法を継続、改善しながら、互いにより良い関係づくりを考慮した指導を実践していると考えられる。
一方で、「ややできていない」「できていない」と回答した方がいることから、指導の現状を把握し改善策等について共有を図る事が大切であると考えられる。

【質問13】（教職員と指導者への質問項目）
練習のし過ぎは心身の不調やケガなどの原因になること（心身の不調やケガなどを防ぐために、休養をとることが大事なこと）を生徒に教えたことはありますか？

教職員



指導者

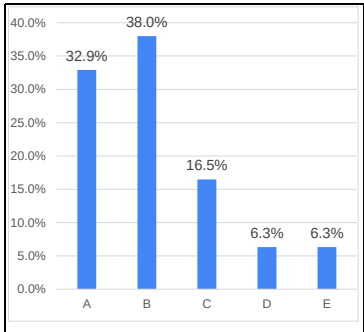


回答項目
A 積極的に教えている
B 教えたことがある
C 教えたことはない

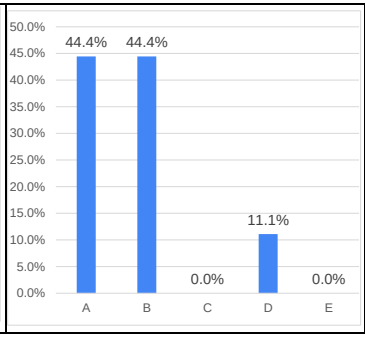
【結果と考察】
〇「A 積極的に教えている」「B 教えたことがある」と回答した教職員は84.8%、指導者は88.9%であった。ほとんどの教職員・指導者が練習のやりすぎについてのデメリットと休養の重要性についての指導を心掛けている。「C 教えたことはない」教職員と指導者も含め、今後も心身のバランスを保ちながら心技体の育成に取り組んでいくことが重要なため、積極的に教えることができるよう心がけて欲しい。

【質問14】（教職員と指導者への質問項目）
現在、休日（土日、祝日）の部活動の地域移行が推進されています。仮に、週1回（土日のどちらか一日）地域でスポーツ活動が行われるとしたら、生徒たちは参加すると思いますか？

教職員



指導者

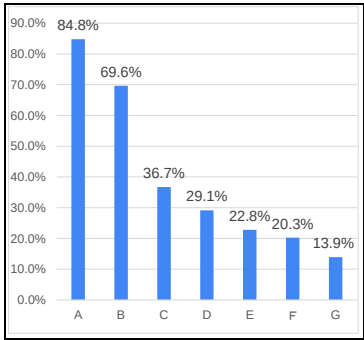


回答項目
A 参加すると思う
B どちらかといえば、参加すると思う
C どちらかといえば、参加しないと思う
D 参加しないと思う
E 分からない

【結果と考察】
〇70.9%の教職員と88.8%の指導者が、週末の地域スポーツ活動が実施された場合、生徒たちは参加するだろうと回答している。教職員・指導者ともに、生徒たちの活動場所を確保する重要さの認識と週末の部活動地域移行についての期待感はあるといえるだろう。一方、参加しないと思う・分からないとの回答については、休日の地域移行がどのような形で実施されるのかなどの内容の見通しがたたないことも大きな要因のひとつであろうと思われる。

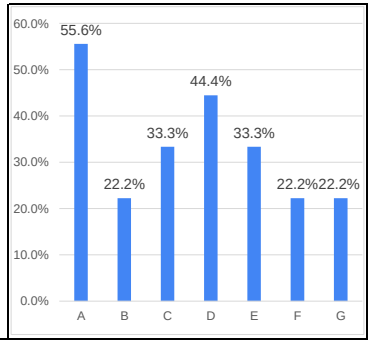
【質問15】（教職員と指導者への質問項目）
どんなスポーツ活動なら、生徒たちがより満足できるものになると思いますか？　　※選択肢の中から最大3つまでを選択した上位7項目

教職員



回答項目
A 専門的で丁寧な指導を受けられる
B やりたい種目が選択できる
C 健康状態を配慮しながら指導してもらえる
D 勝敗や入賞などにこだわらず、気軽に楽しめる
E 他校の友達ができる
F 一種目だけではなく複数の活動に参加できる
G 活動内容などを生徒同士でに決められる

指導者

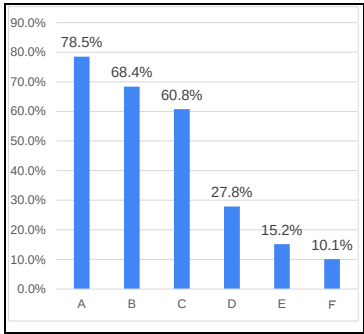


回答項目
A 専門的で丁寧な指導を受けられる
B やりたい種目が選択できる
C 健康状態を配慮しながら指導してもらえる
D 勝敗や入賞などにこだわらず、気軽に楽しめる
E 他校の友達ができる
F 一種目だけではなく複数の活動に参加できる
G いろんな世代や年齢の人と一緒に活動ができる

【結果と考察】
〇教職員・指導者ともに「A専門的で丁寧な指導」についての回答率が高いことが共通している。生徒が選択した種目に対し、専門的な知識を持ち、健康状態にも配慮しながら丁寧に指導することが生徒の満足度を高める大きな要素であると考えていることが伺える。また、指導者は勝敗などにもこだわらず気軽に楽しめることも生徒の満足に繋がると考えている。

【質問16】（教職員への質問項目）
土日の部活動指導がなくなったときに、どのようなことに時間を割きたいですか？　　※選択肢の中から最大3つまでを選択した上位6項目

教職員



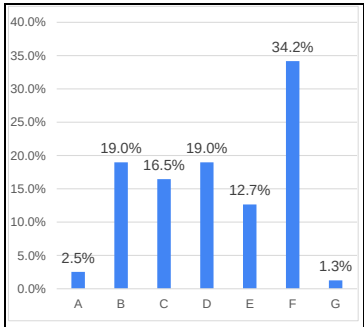
回答項目

A 家族や友人と過ごしたい
B 自分の好きな趣味の活動をしたい
C 授業準備の時間を増やしたい
D 何もせずのんびりしたい
E 担当教科以外の学びの時間を増やしたい
F 地域の文化・スポーツ活動に参加したい

【結果と考察】
〇多くの顧問が「A 家族や友人と過ごしたい、B 自分の時間を大切にしたい、C 授業準備の時間を増やしたい」と回答している。
「C 授業準備の時間を増やしたい」という声も6割を超えていることから、日常の業務量に対しての時間不足という面も垣間見える。

【質問17】（教職員と指導者への質問項目）
地域で活動を展開するにあたって課題になりそうなことをご回答ください

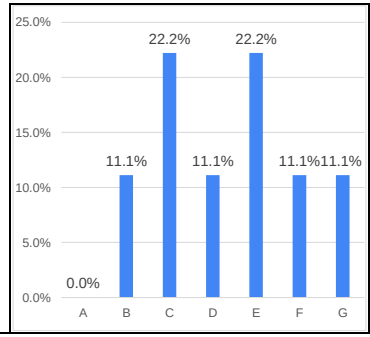
教職員



回答項目

A 先輩後輩との関係性が希薄化する
B 学校における生徒指導・生活指導ができなくなる
C 活動がより過熱化してしまう
D 体験の格差が広がる
E 学校を代表して活動する意識がなくなる
F 結局、教員の負担が減らない
G 練習試合や大会等の運営はどうなるのか

指導者



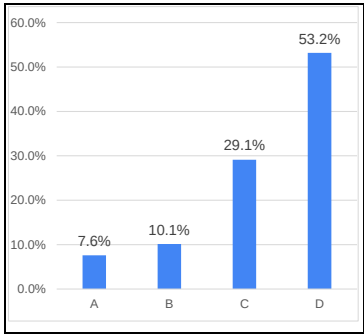
回答項目

A 先輩後輩との関係性が希薄化する
B 学校における生徒指導・生活指導ができなくなる
C 活動がより過熱化してしまう
D 体験の格差が広がる
E 学校を代表して活動する意識がなくなる
F 結局、教員の負担が減らない
G 指導者手当や場所、物、時間等

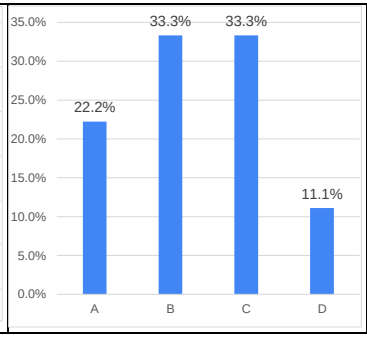
【結果と考察】
〇教職員は、「F 結局、教員の負担が減らない」の回答率が高い。地域での活動を展開するにあたり、教職員が間に入って調整する事も多くなると考え、結局負担が減らないのではないかという見方をしていると思われる。また「B 学校における生徒指導・生活指導ができなくなる」「D 体験の格差」についての回答率も高い。活動を通して健全育成につなげていく在り方について、地域や地域クラブ活動との連携が必要となる。指導者は「C 活動がより過熱化してしまう」「E 学校を代表して活動する意識がなくなる」ことを懸念している。地域での活動を学校内でも紹介したり表彰する等の取り組みをする事により、愛校心等も高まると考える。

【質問18】（教職員と指導者への質問項目）
今後、「休日」の部活動が地域移行された場合に、地域指導者として活動を行いますか？

教職員



指導者



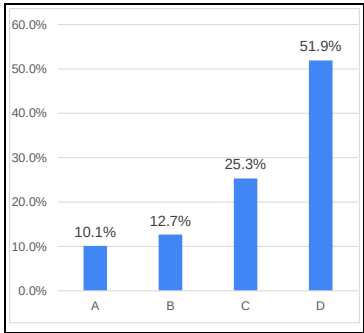
回答項目

A 活動したい
B どちらかといえば、活動したい
C どちらかといえば、活動したくない
D 活動したくない

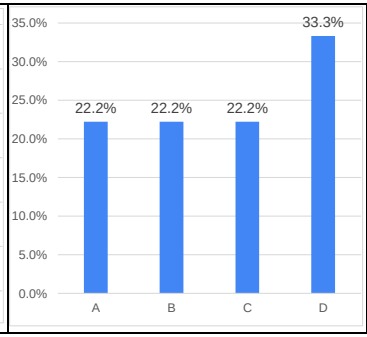
【結果と考察】
〇教職員は「C どちらかといえば活動したくない・D 活動したくない」が82.3%となり、指導者は「A 活動したい・B どちらかといえば、活動したい」が55.5%となり、大きな差がみられた。教職員は、地域指導者として活動した場合、現在の負担感が変わらないことや地域との連携、新たな課題が生まれること等から、消極的な回答につながったとみられる。

【質問19】（教職員と指導者への質問項目）
将来的に「平日」の部活動も地域移行された場合に、地域指導者として活動したいと思いますか？

教職員



指導者



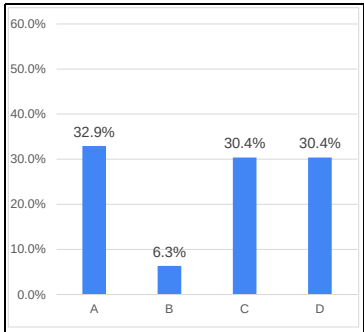
回答項目

A 活動したい
B どちらかといえば、活動したい
C どちらかといえば、活動したくない
D 活動したくない

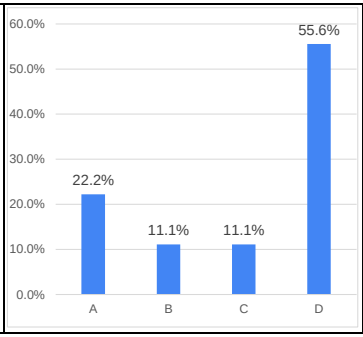
【結果と考察】
〇教職員は「C どちらかといえば活動したくない・D 活動したくない」が77.2%となり、指導者も55.5%となった。教職員については、上記考察と同様である。指導者については、現在、務めている組織が承諾すること等も関係し、上記質問（休日）よりも減となる回答率になったと考えられる。

【質問20】（教職員と指導者への質問項目）
各学校において、部員やその保護者からの部活動における暴力・暴言・ハラスメントの校内相談体制（窓口）を設置し、指導者・部員・保護者へ周知していますか？

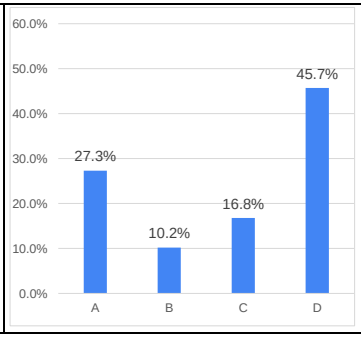
Ｒ５　教職員



Ｒ５　指導者



Ｒ４　教職員＋指導者



回答項目
A 校内相談体制（窓口）を設置し、指導者・部員・保護者へ周知している
B 校内相談体制（窓口）を設置しているが、指導者・部員・保護者へ周知していない
C 校内相談体制（窓口）を設置していない
D 分からない

【結果と考察】
〇昨年度と今年度はほぼ同率である。多くの学校が実質的に、顧問・副顧問・担任・副担任等→部活動担当→部顧問会・管理職 という相談体制を取っていると思われるが、校内相談体制（窓口）が具体的に示されていない状況の学校多いのではないかと考えられる。年度当初で部活動の相談体制についての整理・確認・周知が必要である。学校・指導者・部員・保護者が一丸となり、暴力・暴言・ハラスメントを根絶するとともに、生徒の人権が尊重され、健全で充実した適切な部活動が実現されるよう取り組んでいく必要がある。